

関西の景気ピックス【雇用関連（24年3月）】

- 24年3月の労働力調査（総務省）によると、近畿の完全失業率は3.1%（原数値）と、前年比で横ばいとなった。変化の内訳は、就業者数が前年比で2万人の減少となり、失業者も1万人の減少、非労働力人口は2万人の増加となった。なお、就業者数の減少は6か月ぶり、失業者の減少は3か月ぶり。
- 一方、近畿の有効求人倍率（厚生労働省）は、24年3月は1.17倍（季節調整値）と前月比で0.02ポイントの上昇となった。0.02ポイントの上昇は22年9月以来であり、今後の推移が注目される。
- 企業が深刻な人手不足に陥る中、有効求人倍率はこれまで緩やかな低下傾向が続いてきたが、3月は反転する動きをみせた。ただ、中小企業を中心とした経営環境の悪化で、人手不足ながら求人を出し渋る動きが指摘されており、その傾向に大きな変化はないとみられる。3月の求人倍率の上昇が継続的なものか否か、ひとまずは4月の動向に注目が集まろう。

